

2022年12月



NPO 塾全協 第6回全国研修大会

日時:2022年(令和4年)10月30日(日)14:00~17:00

場所:大和屋本店(大阪府中央区島之内)

テーマ:新しい英語教育の時代へ 日本の英語教育が変わる

講師:第一部 中嶋洋一氏 関西外国語大学教授

第二部 田尻悟郎氏 関西大学外国語学部教授



コロナ渦のため一昨年は中止、昨年はリモートで行われた全国研修大会でしたが、今年度は久々に対面式で開催することになりました。コロナ対策の関係もあり、今回は原則として会員のみでの集まりでした。

←開会セレモニーで挨拶をする山下典男会長

第一部

中嶋洋一氏 〔講演概要 (だ・である調になおしてあります)〕



コミュニケーションは、最後は文法力。

AIがほとんどのことをやってしまう世の中がもうじきやってくる。子どもたちはそういう時代のまっただ中にいる。

思考力、判断力、表現力（想像する力）、オリジナリティ、問題解決をする力、自己修正できる力、そして相手を思いやること…。これらはAIには出来ない。このような力は、人から教えられるものではなく、様々な経験を通して、自ら獲得していくものだ。

ベンジャミン・フランクリンの言葉、「Tell me and I'll forget. Show me and I may remember. Involve me and I learn.」であるが、その意味は「教師が説明をすればするほど忘れてしまう。教師が何か印象的な物を見せると子ども達は興味を持って覚え始める。involve（巻き込む）すなわち生徒達が自己決定をすると当事者になる。自分事になる。そうすると子どもたちはlearnし始める。study と learn との違いは以下のとおり。

If you study, you spend time learning about a particular subject. If you study something, you look at it or consider it carefully.

When you learn you obtain knowledge or a skill through studying or training. If you learn something, you study or repeat it so that you can remember or comprehend it.

(スクリーンを使っての説明)

study

違いは？

learn

study とは、自分がかけた時間や努力
(理解できていない時は何かに頼る)



実際にできているかどうかはわからない。

プロセス

learn は自分の力でできること(理解しているので、自分の言葉で説明ができる)



何も見ないでできる

自分で組み合わせられる



自分の力で調べられる

獲得した状況

塾の授業で、その時間でつけたかった力、それが本当に身についたかどうかを確認できる枠を最後に用意しておかなければならない。「わかる」授業でなく「出来た！」という授業がモチベーションを高める。

今までの学習指導要領は教師が中心、新しい学習指導要領は生徒が中心。

◆ 学力の3要素

- 1) 知識・技能（聞く・読む・書く・話す [やりとり / 発表]）
教師が、どの子もきちんとできるまで指導すべきこと
- 2) 思考力・判断力・表現力 等
教師は教えられない。意図的に活動を仕組むしかない
- 3) 学びに向かう力、人間性（全ての土台に）
「自分で気づけた」「できた」「他から評価された」が自信に

◆ これからの授業で求められること

「主体的、対話的で深い学び」
active learning * studying ではない

新しい観点別評価の項目

1) 知識・技能

()に答えを書くような、単発の知識を問う設問ではなく、実際にコミュニケーションの中で使えるかどうか、自分の力でできるかどうかを確かめなければならない。

2) 思考・判断・表現

単文ではなく、必ず「文脈」で与えること、コミュニケーションの「目的・場面・状況」を踏まえ、生徒自身が自己決定をする、問題解決型にすることが必要になる。

3) 主体的に学習に取り組む態度

教師が説明している時間が多いと、何も見えてこない。問題解決させる(タスク、プロジェクト学習)場面を与えない限り、生徒が「主体的になっているかどうか」は判断できない。

1)は教師がよいするもの、2)と3) がセットになっている。

全国学力調査問題より 単語を文脈で説明する問題

次の英文を読んで、()内に入る最も適切な語(句)を、下の1から4までの中から1つ
選びなさい。

People go to () when they want to borrow books. You can read books or study there.

1 hospitals **2 libraries** 3 book stores 4 restaurants

高校入試もこういう傾向になっていく。

Writing

次の英文は、英字新聞に投稿されたある中学生からの意見です。これを 読んで、この生徒に向けてあなた自身の考えとその理由を英語で書きなさい。

These days, taking pictures and video is getting easier.

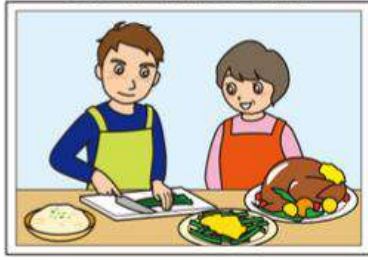
Which do you often use to remember good times, pictures or video? I usually take video to remember good times. I think that video is better than pictures because it has sound.

What do you think?

これからの中高の定期テストはほぼこういう形になっていく。内容のあるものを与えて、それに対して **Yes** ですか **No** ですか何故ですか、と問いかける…それがこれからの要求される。

【話す力】即興でやりとりする

アラン先生が見せている写真



〔問題〕 あなたは、ユイコとアラン先生と話しています。まず、ユイコとアラン先生が、2人で話している場面から 始まります。そのあと、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、会話が続いていくように英語で応じてください。解答時間

間は 20 秒です。それでは始めます。

A: Look at this picture of my family.

A: This is my favorite picture.

Y: Nice! Who is she?

A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.

Y: I see. What kind of work does your mother do?

A: She is a teacher. Do you have any other questions about them?

(解答時間 20 秒) 1回5分で良いからこの練習をすると良い。

〔問題〕 あなたの学校で、海外のあるテレビ局が「世界の子供たちの夢」というテーマで番組を収録しています。画面にある話してほしい内容

話してほしい内容
(①, ②のどちらも話してください)

① あなたの将来の夢、または、
将来やってみたいこと

② その実現のために頑張っていること、
やるべきこと



の1, 2について、英語で話してください。1分間、内容を考えたあと、30秒で話します。それでは、内容を考えましょう。(考える時間1分)

それでは、30秒で話してください。

(解答時間 30 秒)

ここでマッピング（構想）をする週間をつけてる。

30秒で何語程度、60秒なら、90秒ならという見通しを与える。

必要な言語材料がすぐにイメージできるか

want to be (work for) ... / in the future / I'm now
... ing / I must (will have to) ... / to 動詞 / for someone
一ヶ月に1度、トピックを与えて「50語～100語のまとまった内容」
を書かせる。まとまったことを書かないと話せない。Q&Aでは無理

定期テストは、全国学力調査問題のように文脈で考えさせる問題になってきている。

(例) あとの英文をよく読み、適切な英単語を入れなさい。()の中には、英単語の頭文字が書かれています。解答用紙には頭文字も含めた英単語で答えること。

(1) I like (F) I can meet my friends and teachers at school. Next day is Saturday.

(2) I usually read a (n) in the morning. I can get news from it. It's a little difficult for me.

(3) Look at this picture. I love my family. My ①(m) is cooking. She is beautiful and kind.

My ②(f) teacher. He can speak English and Japanese. My ③(s) is a student. She is a movie fan. I don't have any brothers.

大学入試テストでは、「目的、場面、状況」が示されている。

勘では解けない。4択の中からポイントを絞って、内容を絞って行って、どれか2つのうち1つと選ぶことが出来る力をつけてやらなければいけない。

学力世界一のフィンランドでは、小学校1年からマッピングをしている。国家戦略である。

答えが出たら、必ず根拠を問われる。社会に出てから間に合う力をつけようとしている。それは思考力。

正しく読めない発音は聞き取れない。

徹底的に発音記号をマスターすることが必要。

大学生が「中学校で Repeat after me. で習った発音と違って」とショックを受けた単語の一部です。あなたの発音は大丈夫ですか？

again [əˈɡeɪn]	alone [əˈləʊn]	mayonnaise [meɪˈɒnəɪz]
against [əˈɡeɪnst]	lonely [ˈləʊnli]	hurt [hɜːrt]
aurora [ɔːrɔːrə]	really [riːəli]	pizza [ˈpiːtsə]
sauna [sɔːnə]	bandage [bæˈndɪdʒ]	yogurt [ˈjɒɡət]
barber [bɑːrbər]	towel [ˈtaʊ(ə)l]	dictionary [dɪkʃənəri]
beyond [biˈɒnd]	sushi [sʊːʃi]	twentieth [ˈtwentiəθ]

【英語の音読がうま

くなるコツ】

内容語は強く、長く発音。機能語は短く、弱く発音。

* 内容語：名詞、一般動詞、副詞、形容詞、指示代名詞(this、that)、疑問詞、否定(not)

機能語：冠詞、前置詞、人称代名詞、be 動詞、助動詞

英文を読むときは状況を考える必要がある。

(例 1) 次の文で 5 秒の間を開けるとしたら、どこだろうか。How pretty!の前である。

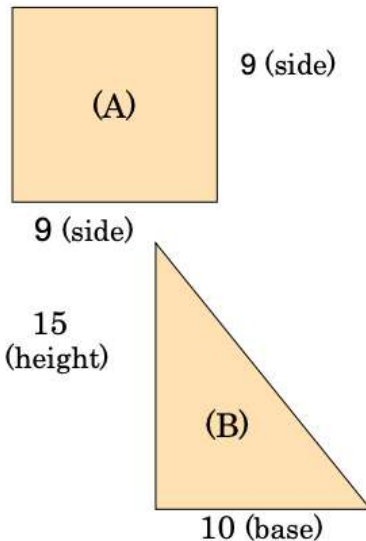
There's a Christmas tree by the window. There are some presents under the tree.

Mrs. Brown : This is for you, Judy. Your grandmother sent it.

Judy : How pretty!

Mrs. Brown : It's a book of stories about Christmas.

理由：包装紙を開けている時間。



Question:

Which is correct?

- A is bigger than B.
- A is smaller than B.

Jun が妹の Mari の宿題を見ています。

Jun : OK, find the areas first.

Mari: The area of A is 9 times 9.
That's 81 square centimeters.

Jun : Good. How about B?

B is more difficult than A.

Mari: 10 times 15, then take one
half of that. I got it.
It's 75 square centimeters.
So, A is bigger than B.

(例 2)次の文で声を出して読まない部分は？

答えは、10 times 15, then take one half of that.

理由：独り言だから読まない。

* 学校の先生は授業ではこんなことを教えない。塾の先生がやったら「凄い！」ということになる。

次の英文（教科書）について

生徒に部屋の見取り図を配り、4人がどの部屋にいるかを考えさせる。「今から、そこにいる家族に伝わるような声の大きさ、言い方で練習します。」

Mother: Can anyone answer the phone? I can't answer it now.

Daughter: I'm sorry, I can't. I'm **changing my clothes.** (着替えながら)

Mother: Sam?

Sam : Mother: Father: Mother:

Sam: Sorry, I'm busy now. I'm **drying my hair.** (ドライヤーの音に負けないように)

Mother: Jim, can you answer the phone?

Sorry, I can't, Aiko. I'm **brushing my teeth.** (指を歯ブラシ代わりに口に入れて)

Mother: Oh, no!

()の中は生徒が自然に考えられる。場面を設定してやると生徒は考え、教科書が楽しくてたまらなくなる。

隠されている部分を「知りたくなる」のが「脳」の特性

「マスク・マジック」(隠されている部分に関心をもち、そこを自然に想像してしまう)

マスクング: 「大切なもの」を覆い隠すこと 学習では、文脈から判断して、最も適切な単語を選ぶ、自分で考えた答えを入れる場合に使うのが「マスクング」。メリットは、確かな文脈、前後の関係性(因果関係、逆接、対比など)を想像し、多様な組み合わせを引き出せること。

教師が、授業で説明したことを覚えているかどうかを確かめるのは、「穴埋め」。答えは1つ。答えが出たら「はい、正解。では、次」という予定調和の学習になる。

新出単語の導入や新しい言語材料を提示するときに、文脈の一部をマスキングで隠し、そのキーワードを考えさせるような問題にすると、生徒は「ああでもない、こうでもない」と考え始める。それが、「思考力・判断力・表現力」を育てる。

学習に必要なのは、「知的にハングリーな状況」を作り出すということ。すると、生徒は「学びたい、知りたい」(eager to learn)の気持ちになる。

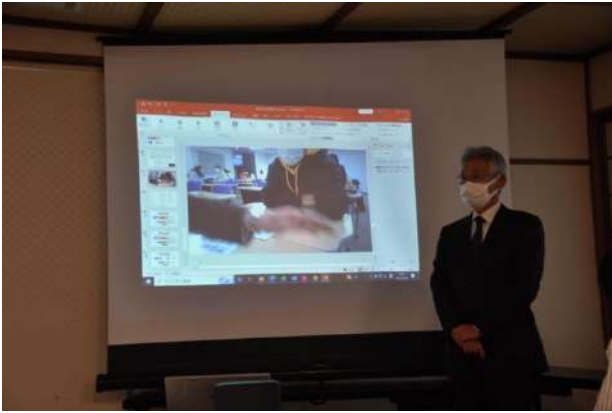
【思考力を高めるマスキングの例】

The moon moves around the (). At (), the moon shines in the ().
Sometimes you can see () of the moon, and sometimes you can see only a () of it.
It takes()() for the moon to move around the earth. The size is one
() of the earth.

第2部

田尻悟郎氏

〔講演概要 (だ・である調になおしてあります)〕



疑問文は4種類ある。Yes、Noが1種類と疑問詞疑問文が3種類に分かれる。それを知っていないと文が作れない。やはり知識が必要になる。

「理解」→「暗記」→「応用・発展」という流れがあるが、小学校は夢中になって繰り返していくうちに楽しくて覚えちゃったと言うのが一番大事で、今まではそういう授業がなされていたが、教科書が出されてからなくなってしまった。子供達は家に帰って英語活動の話をしなくなった。

5文型は読解には役立つが、writingとspeakingにはあまり使えないと言うことで、韓国が止めた時点で使っているのは日本だけになってしまった。私は大学で英語の授業をする際に18の文型を使っているが、そのうち中学校では13~15の文型が出てくる。

(1層目) I study English hard in my room every night / (2層目) because I like my English teacher very much. のように中1では文が2層構造に鳴っている。(becauseは今は中1で出てくる) 中3になると、(1層目) I study English hard in my room every night / (2層目) because I like my English teacher / (3層目) who has just come back from America / 2層目) very much. と3層になってくる。このように何層目、何層目と言わせて音読操作をさせて行くと文の構造が見える。これを「誰が、する、何を、どこで、いつ」と言うように分けて暗記させる。23語であるが、アメリカの英語の教科書は1文平均18語なので、高校生レベルの文が覚えられたということになり、言えたときに生徒は「ヨッシャ！」となる。大事なことは成功体験を積ませることだ、「出来る」と言うことが自己肯定感になる。教える一方の授業は成功体験がない。

英文を解説するとき、意味の解説以外にもう一つ大切なことは、音がひっついているところと、脱落しているところ、崩れてしまっているところと、この3つである。次のようなルールがある。

- ① 連結ルール (people are) people are はピーポー アー でなくピープラー
- ② r母音ルール (wonder + ing)
- ③ n母音ルール (can you, in it) キャンユーでなくキャニユー、
- ④ ちっちゃな“ツ”ルール (eat dinner)
- ⑤ “トゥトゥドゥヌル”ルール (little, medal, tunnel)
- ⑥ 連続同子音省略ルール (first step, must stop, next stage, convenience store)
- ⑦ タダラルール (lettuce)
- ⑧ h消滅ルール (like him, pick them up)
- ⑨ NTDルール (twenty, hundred)
- ⑩ “トウンドウン”ルール (written, garden)

リスニングはまず耳、その後は文法の知識と文脈。たとえば “There’s a convenience store straight ahead at the second light.” convenience store と second light は聞こえても straight ahead at the は聞こえない。straight ahead はルール①、 ahead at the はルール①と④ というようにどこが何番の

ルールに当たっているかを理解させて真似させる。会話では分歩が間違っても発音が間違っても通じれば良いが、テストで点取ろうと思ったら教科書の音読を雑にやったらダメ。ネイティブと全く同じ発音を作れるための上のルールが、どこに何番があてはまるかをまず皆で見抜いて、それから当てはめて皆で音読してみる。そうすると「えー、こんなこと言ってたの！」と言わなくて済む。「こんなこと言ってたんだー！」と言う人は、同じ英文を読んでもネイティブが呼んでいるのと自分が呼んでいる時の音が違うから同一視出来なくなる。だから、リスニングで点取りたければ教科書のCDとかを聴いて全く同じ発音をする練習をしなければならぬ。同じ音をつくる理論がわかっていなければ同じ音を作れない。そうなってくるとこの10個のルールが絶対必要になる。

場内からの質問



Q: 学校と塾の役割分担はどういう風にしたら良いか。

A(田尻氏): 現場は文科省のせいでかなり混乱しているので、次の指導要領が出るまでは破壊が進むと思う。英語教育の暗黒時代に入っているのでは

(場内 笑)、学校の先生は真面目だから文科省の

言うことを聞かないといけないと思っている。今回混乱しているから誰かが救ってあげないといけないので、そこに塾の役割があると思う。

Q: マッピングをどうしたらよいか。

A(中嶋氏): マッピングは、教師は出来ない。皆さんの出来ることは上手にやっている子供のを皆さんの前に出して、それについて話し合うことだ。テーマは身近な物が良い。例えば My favorite food とか My hobby とか言う門から広げて行くと良い。子供達にアンケートをとるといろいろな物が出てくる。

大会宣言

大会宣言を読み上げる杉山信良実行委員長
(栄光塾 (大阪府))



世界中に蔓延したコロナ禍の影響により、日本でも多くの活動が制限され、我々塾全協も一昨年は、全国研修大会を中止せざるを得ない状況に置かれました。



昨年は、リモートにより研修大会を再開しましたが、今年度は、皆が大阪に集結し、研修の塾全協の原点に立ち返るべく、權より始めよで、まず会員である私たちが研鑽を積める機会が欲しいという強い願いから、『**新しい英語教育の時代へ 日本の英語教育が変わる**』というテーマが決まり、このテーマにふさわしい講師として、真っ先に中嶋洋一先生と田尻悟郎先生の名前がメンバーの中から挙がりました。

お二人の先生には、快く私どもの招聘に応じていただき、この段階で既に今日の第46回全国研修大会の成功を確信しておりました。

中嶋先生の中学校主要教科書の分析とワークショップ、中学生の指導でも実績のある田尻先生の講演で得た気付きと教訓を明日からの指導の糧として、子どもたちに還元していく事をお約束して、大会宣言といたします。

2022年10月30日

第46回塾全協全国研修大会実行委員長 杉山 信良



懇親会



← 藤井先生の英語落語

編集 NPO 塾全協東日本ブロック事務局長 中山和行
〒350-0322 埼玉県比企郡鳩山町今宿 553-1
TEL49-296-1111 fax 049-298-3405 E-mail gyqbt650@ybb.ne.jp
NPO 塾全協 HP <http://www.jzk-east.com>